

平成27年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT27021 英語ができるようになる仕組み～「聞きたい」「話したい」を体験しよう～



開催日：平成27年8月1日(土)

実施機関：宮城教育大学

(実施場所) (附属図書館スパイラルラボ)

実施代表者：板垣 信哉

(所属・職名) (小学校英語教育研究センター・センター長)

受講生：小学5・6年生 20名、中学生 1名

関連URL：<http://renkei.miyakyo-u.ac.jp/hirameki/index.html>

【実施内容】

[プログラム実施で留意、工夫した点]

- ・研究成果を小学生に分かりやすく伝えるために、まず、板垣・鈴木の両講義では、パワーポイントを利用したり、音声を利用したりした。さらに、一方向に伝えるだけではなく、考えや意見を聞いたり、ペアでディスカッションを行い、双方向的な講義を試みた。
- ・ワークショップでは、電子黒板を利用し、3名のグループで力をあわせて問題を解いたり、体を動かすゲームや英語であいさつカードを作成したりする活動を取り入れることで、参加者が能動的に取り組めるように工夫した。
- ・大学生が講義やワークショップと一緒に参加したり、休憩や昼食を一緒に取ることで、受講生に親しみやすい環境を演出した。



[当日のスケジュール]

- ・10:00～10:20 開講式(あいさつ、オリエンテーション)
- ・10:20～11:05 講義「外国語活動と中学校英語科」(講師：板垣)
- ・11:05～11:10 休憩
- ・11:15～12:00 講義「やる気と英語学習」(講師：鈴木)
- ・12:00～13:00 昼食(参加者全員で昼食を取り、昼食後はキャンパスツアー)
- ・13:00～13:45 ワークショップ「電子黒板を使った外国語活動を体験しよう」(講師：Leis)
- ・13:45～13:55 休憩
- ・13:55～14:40 ワークショップ「アクティブな体と心を育てる外国語活動を体験しよう」(講師：根本)

- ・ 14:40～15:00 おやつタイム
- ・ 15:00～15:20 修了式・解散（アンケート記入、未来博士号授与、記念撮影）

#### [事務局との協力体制]

- ・ 事務局は実施時期の調整、広報活動、参加者申し込みのとりまとめ、保険加入、予算執行にあたり教員に対して全面的に協力し、効率的で円滑な事業の実施が可能であった。
- ・ 地元情報誌「ままぱれ 宮城版」に案内情報を掲載した。
- ・ 体験イベント in 大学 原稿のご依頼し、HPやパンフレットに掲載した。
- ・ 県内の小・中・高や各教育施設（美術館・博物館・図書館など）にチラシを配布した。
- ・ 学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティのHPに案内情報を掲載し、広報を行った。
- ・ 本学の専用HPを立ち上げ広報を行った。本学のツイッター・フェイスブックに記載した。
- ・ 同担当が、参加者の父兄との連絡調整の一部を行った。
- ・ 同担当が、会場案内の立て看板を作成した。

#### [広報体制]

- ・ 地元情報誌「ままぱれ 宮城版」に案内情報を掲載した。
- ・ 体験イベント in 大学 原稿のご依頼し、HPやパンフレットに掲載した。
- ・ 県内の小・中・高や各教育施設（美術館・博物館・図書館など）チラシを配布した。
- ・ 学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティのHPに案内情報を掲載し、広報を行った。
- ・ 本学の専用HPを立ち上げ広報を行った。本学のツイッター・フェイスブックに記載した。
- ・ いくつかの学校については、直接チラシを持参し、児童・生徒への配布を依頼した。

#### [安全配慮]

- ・ 本プログラムは基本的に危険な実験を伴うようなプログラムではないことから、ケガなどは想定されないが、ワークショップではさみなどを用いることもあるため、念のために参加者および実施協力者には短期のレクリエーション保険に加入してもらった。
- ・ 様々なトラブルに迅速に対応出来るよう、参加者3～4人に1人の割合で学生等を配置した。

#### [今後の発展性、課題]

- ・ アンケートの結果では参加者から高い評価をいただき、充実したプログラムが実施できたと考えている。
- ・ 将来教員を希望する大学生に小学生と接する機会を提供でき、大学生にとっても充実した経験になったと考えている。
- ・ 昨年に引き続き参加してくれる児童と新しく参加する児童、英語力が得意な児童と英語を最近になって勉強した児童、5年生と6年生の児童ごとに、グループ分けを行って、講義やワークショップを行うと、より効果的に研究成果を伝えたり、体験させることができるかもしれない。
- ・ 本プログラムを大学のオープンキャンパスや学園祭の時期にあわせて開催することで、児童により大学を身近に感じてもらえるかもしれない。

**[実施分担者]** Leis Adrian(教育学部・准教授)  
根本 Alison(教育学部・特任准教授)  
鈴木 渉(教育学部・准教授)

【実施協力者】 8 名

【事務担当者】 北澤 優(研究・連携推進課・研究協力係)